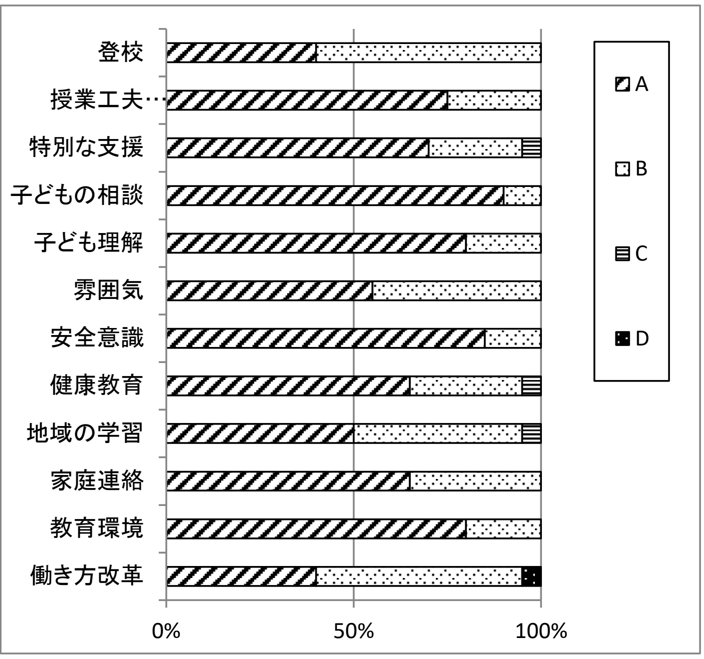
R5 後期 夷隅っ子アンケート 集計表　学校職員（20人）　回収率 100%

番号	項目	A	B	C	D	計
1	登校	8	12	0	0	20
2	授業工夫改善	15	5	0	0	20
3	特別な支援	14	5	1	0	20
4	子どもの相談	18	2	0	0	20
5	子ども理解	16	4	0	0	20
6	雰囲気	11	9	0	0	20
7	安全意識	17	3	0	0	20
8	健康教育	13	6	1	0	20
9	地域の学習	10	9	1	0	20
10	家庭連絡	13	7	0	0	20
11	教育環境	16	4	0	0	20
12	働き方改革	8	11	0	1	20
	合計	159	77	3	1	



※ A→そう思う B→ややそう思う C→あまりそう思わない D→そう思わない

◆自由記述
・働き方改革を進めていかなければ、持続可能な職場環境は作れないと思います。
・昨年に比べて、さらに働きやすい職場になっていると思う。（仕事分担が明確、メリハリのある勤務時間、失敗などを伝えられる雰囲気）
・働き方改革にもっと取り組んでほしい。
・働き方改革について。出退勤の管理だけでなく、「業務改善」の点から、行事の数や進め方、校内の事務処理の精査・精選をしていったほうがいいのではないかと思いました。前例踏襲ではなく、行事や事務処理そのものの必要性を考えたり、行事に係る準備や事務処理については簡略化したりすることもできると思いました。
・行事等の準備について。もっと子どもたちを企画からかかわらせてみるのもいいのではないかと思いました。先生方が７～８割準備し、仕上げの部分のみ子どもたちが…という場面が多いように感じました。（時間がかかってしまうかもしれませんが…）もっと、準備（企画）段階から子どもたちにやらせてみてもいいのかなと思いました。
・こども園、小、中、県立特別支援学校、県立高等学校のとの連携を進め、地域の学校として行事等を精選や統合を進めたい。

〔考察〕

全項目において肯定的な回答が多く、学校の教育活動がおおむね満足できる状況で進められていると考える。

「3特別な支援」につては全職員が全児童をみる指導体制を強化し、個別の指導計画や個別の指導計画を共通理解し常に情報を共有し進める。また、通常学級に在籍する困り感を有する児童に対しては、保護者と合意形成を図り個に応じた支援をすすめる。一人ひとりの困り感に寄り添い教育活動をすすめる。

「8健康教育」については、学校だよりや保健だよりを活用し、児童を通して家庭に情報提供を行っていく。食育に関しては、栄養教諭の食育学習を年間計画に位置づけ行い、養護教諭、外部との連携を行い健康保健とともに進める。

「9地域の学習」については、コロナ禍前の活動に戻りつつあるが、地域のよさを、地域素材を生かし、地域人材を活用した協働事業の展開を行い、行事の精選を図りつつ、地域教材と地域人材を生かした教育活動を行っていきたい。

特に「12働き方改革」については、職員会議のペーパーレス化やラインワークス等の情報共有ツールを活用したことで、児童と向き合う時間の確保が持てていると実感できた教職員の割合が高くなっている。しかし、もう一歩踏み込み、業務の精選と教職員の意識改革を両立して行い、行事の精選や統合を抜本的に行いさらなる業務改善を図らなければ、持続可能な職場環境の維持ができないという意識を、全職員で共有する。

課題としてあげられている点については，要因を明らかにした上で、解決策を模索し，ＰＤＣＡサイクルを活用しながら改善をすすめる。全教職員が考えを出し合い，方法を洗い出し改善を進める。家庭・地域とともに児童の心に寄り添った教育活動を今後も「チーム夷隅」で行う。